

第37回 神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回の「氾濫」のお題は「利きのない駒」です。難解作が多く、全問正解は市村氏のみ。充実した作品群だったのでですが、1作余詰が出てしまいました。

①ばか詰 93手
神無七郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					皇	金	金	香
				金		桂	桂	歩
								驥
				桂	馬			
				桂	王	香		皇
				金		糸		
				皇	飛	歩	王	銀

持駒 歩15
28銀、同玉、34香、27玉、

- 45馬、26玉、44馬、35龍
- 27歩、同玉、45馬、26玉
- 27歩、25玉、26歩、24玉
- 25歩、13玉、14歩、同玉
- 15歩、25玉、26歩、24玉
- 25歩、同龍、46馬、34玉
- 45馬、24玉、46馬、15玉
- 16歩、26玉、27歩、同玉
- 45馬、26玉、44馬、35龍
- 27歩、25玉、43馬、34龍
- 26歩、同玉、44馬、27玉
- 45馬、26玉、27歩、25玉
- 26歩、14玉、15歩、13玉
- 46馬、24龍、14歩、同玉
- 15歩、同玉、16歩、26玉
- 27歩、同玉、45馬、26玉
- 44馬、16玉、43馬、26玉
- 44馬、25玉、43馬、34銀
- 26歩、同玉、44馬、35銀打
- 27歩、同玉、45馬、28玉
- 46馬、18玉、45馬、27銀
- 19歩、28玉、46馬、39玉

48歩迄93手。

☆合駒を「行き所のない駒」だけにする作品です。初手48歩は49銀合で不詰。そこで銀を合駒として盤上に配置させ49銀合を防ぎます。しかし、攻方37香、受方25龍、攻方13歩の3つがその実現を阻んでいます。須川卓二―1筋の歩を消去するのには四苦八苦。銀を品切れにしての詰上りは斬新です。

市村道生―数多くの邪魔駒の処分と移動。流麗な手順で綴る高級な知恵の輪。

☆37香は34に移動して消去。25龍は24に移動させたいのですが、直接は無理なので3筋を迂回します。13歩は香消去や龍移動との兼ね合いで何度も1筋に据え直

してから消します。これにすべて済むと34・35・27に銀を置くことができ、待望の48歩が実現します。正解者はわずか2名でした。

②ばか自殺詰 150手（余詰）
たくぼん

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王		王
	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●						
	●	●		●	●	●	●	
	●	●	桂		驥		●	
	●	●		●			●	
	●	●					●	
	●	●	●	●	●	●	●	銀

攻方持駒 角金4銀2桂歩4
受方持駒 なし

- ④41金、同玉、53桂生、51玉
- 41桂成、61玉、51圭、71玉
- 61圭、81玉、71圭⑤92玉
- 81角、93玉、92角成、94玉
- …(20手略)…49馬、29玉、

18 銀、同玉、19 歩、17 玉、
…(10 手略)…13 歩成、33 玉、

23 と、43 玉、33 と、53 玉、
43 と、63 玉、53 と、64 玉、
63 と、65 玉、64 と、66 玉、

◎ 67 銀、57 玉、66 銀、46 玉、

37 金、同龍、57 銀、同玉、

69 桂、66 玉、67 歩、同龍、

65 と、同玉、57 桂、64 玉、

65 歩、63 玉、64 歩、53 玉、

63 歩成、同龍、65 桂、43 玉、

53 桂成、33 玉、43 桂、23 玉、

33 桂、13 玉、23 桂、14 玉、

13 桂、同龍、23 銀、15 玉、

14 銀成、16 玉、15 全、17 玉、

16 全、18 玉、17 全、19 玉、

18 全、29 玉、19 全、同龍、

39 馬、同玉、29 金、49 玉、

…(10 手略)…89 金、同龍、

99 歩、同龍、89 金、97 玉、

…(12 手略)…92 金、同龍、

81 桂、同龍迄150 手。

【●】不透過不可侵の領域を
表す。飛び越すことは可能。

☆●が盤上に渦を巻く異様な
初形。でも解いてみると意
外と簡単？

某氏(抜粋)―往路は王様の

一人旅、復路は龍のお伴連
れで、9一玉、9二龍の形
にして8一金、同龍まで合

駒なしの詰上りは比較的簡

単に見えたのですがどう考

えても150手では無理。

☆本作の大まかなストーリー―

は右の評の通りですが、つ

いつい惰性で指してしまう

手順の中に、手数短縮のト

リックがいくつも埋め込ま

れています。正解者は3名。

市村道生―桂は金なりの心境。

2 手短縮の手順が見事です。

原雅彦―角を序に使わないと

154 手詰になります。

☆④で23桂や21金等とする
と後で65桂が邪魔駒になり、

⑩で91玉、81桂…と普通に
追うと収束で余分に手が掛
かります。作意は④で金を

捨て、⑩で角を先行投資。

一時的には損をするような
追い方が最後に得になると
いう心理的妙手順です。

☆問題が発生したのは◎の所。

銀を先行投資して69桂の3

段活用を行う本作最大の見

せ場だったのですが、65と、

67玉、66と、57玉、46銀、

同龍、47金、66玉、57金、

同龍、67歩、65玉、66歩、

同龍…と普通に折り返す非

限定(余詰)がありました。

修正は攻方46歩追加で容易

なだけに悔やまれる見落と

しです。作者・解答者の皆

様に申し訳なく思います。

③背面ばか自殺スタイルメイ
ト8手
神無二郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1
王				王				

持駒 香歩

53 香、54 角、62 香成、63 飛、
52 歩、42 玉、51 歩生、62 飛
迄8手。

【背面】敵駒と背中合わせに
なったとき、互いに利きが
入れ替わる。

【スタイルメイ】王手は掛
かっていないが合法手のな
い状態にする。

岩本修―初手と二手目は勘で

指せるが、92と82に飛で効かせるとは思わなかった。

☆自玉の包囲には大駒の発生が必要。しかし大駒を発生させるだけではだめです。

例えば：

54香、53飛、同香、54角、61飛、62歩、42香成、同玉？

☆この手順は持駒の歩が余っており、ステイルメイト未達成。普通の手順では「歩が余分」「手数が足りない」という事態になるのです。

余分な手数を掛けずに歩を処理するには：

西村恒雄―51歩生は新鮮に感じました。特殊ルールでは駒の利きに位置も絡んでくるんですね。

☆一段目にも歩を置ける背面の特徴を活かし、開き王手で歩と香を一度に処理する

最終2手が問題解決の鍵。

この手筋は一度覚えて忘れないと思います。

④アンチキルケマドラシばか

自殺詰 8手

上谷直希

										1
										2
										3
										4
										5
										6
										7
										8
										9

一 二 三 四 五 六 七 八 九

持駒 飛角

99飛、19飛、59角、97角、48角、75角成、39角、同馬／22馬迄8手。

【マドラシ】同種の敵駒が互いの利きに入ると、利きがなくなる。成駒と生駒は別種の駒として区別する。

【アンチキルケ】駒を取ると、

最も近い将棋での指し始め位置に戻される。(戻り位置と駒種を/で表す)

須川卓二―複合ルールはどんな手が潜んでいるのか想像しにくいので難しい。それにしても美しい角の攻防。

☆最初の2手で飛の睨み合いの形を作り、これを遮ったり戻したりする間接操作で99飛の利きの有効／無効を切り替えるのが巧い構想。

2手目すぐに角合すると失敗ですが、この形なら93玉が不動のまま角を動かせるので、手数を短縮できます。

駒井信久―大駒4枚、綿密な計算のもとで打ち下ろされる。

☆飛を打つ筋は初形の玉位置から1筋と9筋と分かりま

すが、何段目に打つかは最終手でやっと判明します。

角の打ち場所は、受方の角が成るラインと攻方の角が王手を掛けるラインの交点、即ち75地点を中心に、前後の手順により決まります。

☆最後は取れそうで取れない馬による詰上り。応手として「同王／59王」「同桂／29桂」の2つが考えられますが、どちらも戻った駒が99飛の利きを遮り、19飛の利きが復活して自玉への王手となります。この応手で19飛の利きが縦と横に働くのが正に「隠し味」ですね。

☆作意だけ見ると詰上りからの逆算物に思えますが、構図は投稿初期と出題図でかなり異なります。優れた構想と推敲の賜物です。

⑤背面ばか自殺スタイルメイ

ト 12手

神無太郎

		銀							
	飛								
		王		銀					
						王			

持駒 飛2角2

92角、93桂、63銀生、同玉、
72角、73桂、62銀成、同玉、
32飛、33桂、52飛、53桂打
迄12手。

原雅彦—単純でも美しい!

☆やみくもに解こうとすると
超難問、逆に狙いがわかれば
一瞬で解ける作品。

山本強志—桂4枚で大駒4枚
と王様を金縛りに。最終図

駒の並びが美しい。この図
が解けて何とか正解ゼロか
らは脱出!ほっとしました。

☆飛角はすべて2段目に打ち、

桂の背駒で無効化。更にその
桂を自玉の包囲網形成に
役立てます。最終形では盤

上に飛角と桂の対が4つ。
それぞれ王の前後左右を一

つつ封鎖しています。持
駒を一切捨てない、異色の

スタイルメイトです。

⑥安南ばか自殺スタイルメイ

ト 16手

神無太郎

持駒 飛桂4

47桂、35玉、39飛、46玉、
58桂打、47玉、31王、58玉、
47桂、48玉、38桂、47玉、
32桂生、29と、37飛、同玉
迄16手。

☆同じスタイルメイトでも、

③や⑤とは根本的に異なる
発想が必要な作品。自玉を
囲うのではなく、一段目に

飛ばし、背後から生桂で蓋
をして利きを消します。

☆序は桂で玉を誘導しながら

39飛を設置。自玉と桂を飛
に変え、29角を軸とした開

き王手で狙いの位置に飛ば
します。使い終わった飛角

はと金と玉に取らせ、ステ
イルメイト達成。一切無駄

のない手順です。

市村道生—31玉に気付く迄は
超難解作。以後は華麗な捌
きで、詰後感最高。

☆31玉は正に思考外の一手。

この構図でこの着手に思い
至るのは困難でしょう。優
れた構想によって自然な難

解さを生み出す—構想作の
理想の姿の一つがここにあ
ります。

〔各題の正・誤・無解者数〕

①209②317③614

④407⑤506⑥1010

〔解答成績〕(太字5名当選)

〔全題正解〕市村道生

〔5題〕須川卓二

〔3題〕駒井信久

〔2題〕神谷薫 原雅彦

〔1題〕山本強志、西村恒雄、

岩本修

〔0題またはコメントのみ〕

市原誠、佐藤司、塚崎彰仁